

# 茨城の国語教育

## 第二十一号

### 目次

- 象る(かたどる)言葉・言葉で象るということ  
昌子 佳広 1
- 漢字の起源や書体に関する漢文教材についての研究  
——書写書道・漢文融合教材の開発を視野に——  
李 満紅 齋木 久美 11
- 川端康成が茨木中学校で受けた書道教育  
——「以文会友」と孤児根性の関係——  
宮崎 尚子 20
- 論理的思考力・表現力の育成につながる語彙指導の在り方  
——文末表現に着目した「読むこと」と  
「書くこと」との関連を図る学習指導を通して——  
石崎智恵子 28
- 平和作文における使用語彙と認知的成長  
——単語親密度と初出学年データに基づく分析——  
鈴木 一史 40

## 編集後記

本号も会員からの投稿論文を掲載することができました。石崎氏は茨城大学教育学部に内地留学生として学んだあと、茨城の国語教員として日々実践と研究とに精進し活躍されています。特に本論文では教科書全体に関わる精緻な分析を行なっています。このように、本学会誌は実践と研究とを高次で融合させた論考を世に発信していくことによって、茨城の国語教育、ひいては日本の国語教育を牽引していくことを目指しています。そこで、卒業生をはじめとした会員皆様の実践研究の論考をお待ちしております。論文投稿をご希望の方は、事務局までお気軽にお問い合わせください。

教育学部のホームページが刷新されたことにより、国語教育のページも新しくなりました。今後はこちらをご登録いただきますようお願いいたします。

[<https://www.edu.ibaraki.ac.jp/guide/course/list/japanese/>]

(鈴木)

### 茨城の国語教育 第二十一号

令和八年三月三十一日 発行

編集兼  
発行

茨城国語教育学会

代表 齋 木 久 美

〒310-8512 水戸市文京二ノ一

茨城大学教育学部国語教育教室

電話 〇二九上二二八八二二三